

授業科目	症候と病態	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護学科	必修

科目担当責任者	齋藤重幸 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : ssaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	最適看護を行うためには疾病の正しい理解・診断が必要である。疾病の診断・アセスメントにはさまざまな症状・症候の理解を通じて背景となる病態を把握することが重要である。臨床では臓器系統別ならびに症状別のアプローチを組み合わせながら鑑別診断・臨床診断が進められており、本講では症候に基づいて病態の理解を深めることに重きを置き、主な症候について実際の症例も呈示しながら、問題抽出のポイントを論じる。講義内容は疾病治療論 1~4 の基盤となる知識である。また看護診断法の演習前には必須のものとして修めなければならない。疾病・症候の履修なしで患者の傍に立っても、単なる優しい学生でしかなく、看護学生足りえない。		
到達目標	以下の代表的な症候と臨床病態、基礎病態との関連を説明でき、それぞれの症候による重症度を予測できる。 ショック、全身倦怠感、易疲労感、発熱、るい瘦、肥満、呼吸困難、胸痛、動悸、浮腫、チアノーゼ、失神・めまい、 血圧変動、無尿・乏尿・頻尿、蛋白尿、血尿、咳嗽、喀血、喘鳴、嘔声、腹痛、悪心・嘔吐、下痢、便秘、下血、横断、 腹水、貧血、紫斑、リンパ節腫脹、意識障害、知能障害、失語・失認・失行、麻痺、筋萎縮、運動失調、反射異常、不随意運動など。		
関連科目	疾病治療論 1~4、及び看護臨床各科目の基盤となる知識を履修するものである。		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	50%	
	小テスト	25%	
	受講態度	25%	
教科書	①小松他 [最新刊] 「系統看護学講座成人看護学①②③④⑤⑥⑦⑧⑩」 医学書院		
参考書	①南学他 [最新刊] 「内科学書」 中山書店 ②矢崎他 [最新刊] 「内科学」 朝倉書店		
履修上の留意点	1 年次に履修した解剖学、生理学、生化学、病理学の知識を整理し、疾病治療論の内容を復習しておくこと。講義は疾病治療論概論と交互に行う。教科書は疾病治療 1 でも使用する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	症候の種類、鑑別診断の実際について	事前：該当症候についての予習 事後：講義資料の復習	講義	齋藤
2	全身症候(全身倦怠感、易疲労感、発熱、不穏、ショック、意識障害、肥満、るい瘦など)の病態とその評価方法	〃	〃	〃
3	循環器系における症候(動悸、胸痛、浮腫など)の病態とその評価方法	〃	〃	〃
4	呼吸器系における症候(咳嗽、チアノーゼなど)と病態とその評価方法	〃	〃	〃
5	腎・泌尿器系における症候(無尿、多尿、異常尿所見など)の病態とその評価方法	〃	〃	〃
6	血液疾患における症候(貧血、出血、紫斑、リンパ節腫脹など)の病態とその評価方法	〃	〃	〃
7	消化器疾患の症候と病態について概説(便秘、下痢、下血、吐血、腹痛など)	〃	〃	〃

8	学習内容の整理と応用(患者アセスメントに向けて)	〃	〃	〃
---	--------------------------	---	---	---